

1. 目標	(1) 市民とともに歩む経営を行います		
とりまとめG	企画部 総合政策G	担当G	企画部 総合政策G 総務部 財務G

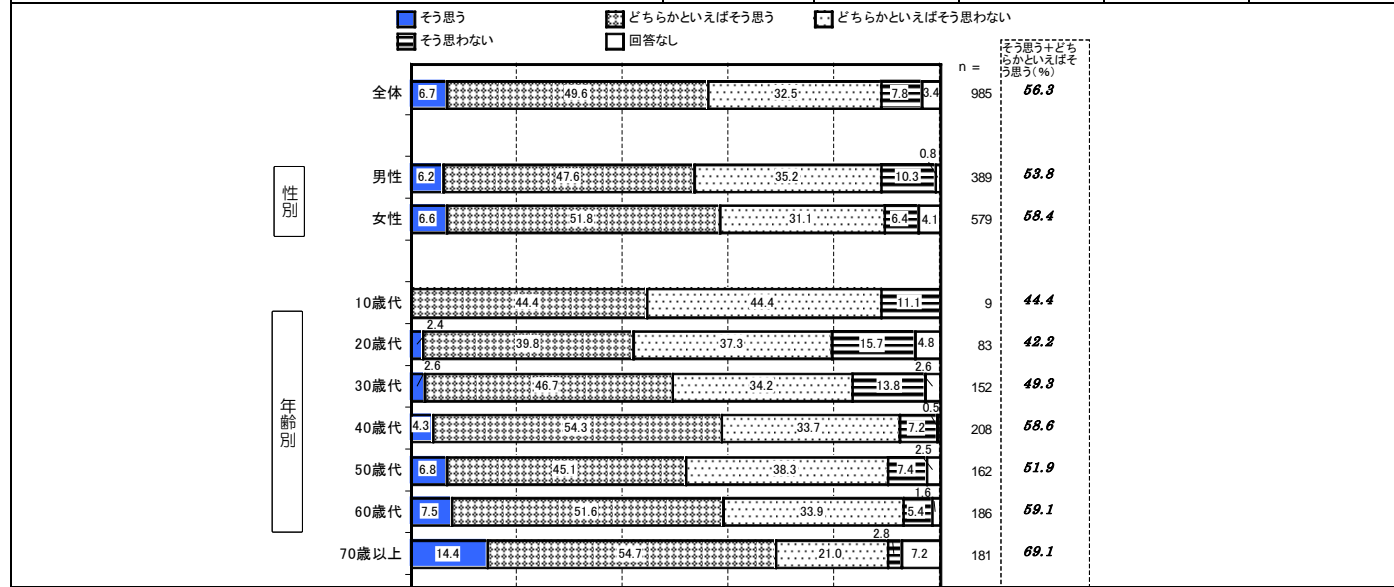
2. 目標が達成された姿
- ◇ 市民と行政がまちづくりの目標・課題・解決策といった情報を共有し、まちに対する愛着を深め、まちづくりに積極的に関わろうとする市民が増えています。
  - ◇ 総合計画の実行、評価や進行管理に多数の市民が参画し、わかりやすい経営が行われています。
  - ◇ 職員は、市民の意見をじっくり聞き、行政の考えをきちんと伝え、市民と真剣に対話しています。

3. 【CHECK】 みんなで目指すまちづくり指標 —目標達成状況—

目標の達成度を計る指標	計画策定時の値 (2010)	実績値			目標値 (2013)	進捗度 評価
		(2011)	(2012)	(2013)		
1) 目指すまちの姿である「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を知っている人の割合	—	22.4%	33.6%	39.9%	30%	
2) 総合計画の評価や進行管理に参加したことがある人の数	—	73人	110人	131人	100人	

4. 【CHECK】 市民意識調査結果

設問	計画策定時の値 (2010)	実績値			動向
		(2011)	(2012)	(2013)	
市民に関かれ、市民が参画する市政運営が行われているまちだと思う	46.4%	51.8%	53.1%	56.3%	



5. 【CHECK】 「みんなで目指すまちづくり指標」市民意識調査結果に対する現状分析(要因・課題等)

- ◆ 「指標」結果は、前年より3.2%アップ、計画策定時から9%アップしている。
- ◆ 「指標1」は、市議会議員・各町会・各公民館・各団体の協力を得て、地域活動におけるチラシ等への掲載、ジャンパー・のぼりの作成やのぼりの作成や、地域の行政が、様々な形で発信をした結果、目標値に達することができた。
- ◆ 「指標2」は、人材の掘り起こしや積極的な呼びかけを行った結果、目標値に達することができた(市民会議 H24 新規参加者 37人、H25 新規参加者 21人)。今後も、市政に対する関心を高め、「高浜市の共同経営者」意識を持った市民の増加につなげる取組みを進めていく。
- ◆ 「市民意識調査」結果は、年代が上がるほど、「そう思う+どちらかといえばそう思う」の割合が高くなる傾向にあることから、若い世代に対するアプローチが必要である。

## (前期) 施策評価シート

### 6. アクションプラン(事務事業)の評価結果(「進捗状況」「効率性」の観点から見た行政による内部評価)

アクションプラン (事務事業名)	評価 結果	活動指標名	実績値 (2013)	目標値 (2013)
		成果指標名		
【No.1】 総合計画進行管理事業	事業 完了	市民会議の回数(全体会の回数+分科会の回数(平均))	13.4回	14回
		市民会議に参加したことがある市民の数	131人 (累計)	125人
【No.2】行政評価システム運用事業	ゼロベース で見直し	行政評価(事務事業評価)の実施回数	1回	1回
		アクションプランの達成率	62%	100%

### 7. 【CHECK】これまでの主な取組みと成果

#### 【No.1】

◆総合計画を市政経営の中心に置き、実効性のあるものとするために「第6次高浜市総合計画推進会議」と、その作業部会「高浜市の未来を創る市民会議」を設置。平成25年度を「前期基本計画の総仕上げの年」と位置づけ、市民と協働で前期基本計画の「点検・確認」や「目標達成に向けた取組み」、「中期基本計画素案の検討」を行った。

◆H25 市民会議開催回数→全体会3回(H24比 ▲3回)、分科会94回(H24比 +7回)

H25 参加者数→市民92人(H24比 ±0人) 職員60人(H24比 +2人) 計152人

市政運営やまちづくりに関する情報共有が進み、まちづくりに対する関心が高まった。市民目線のアイデアを取り入れることにより、目標達成に向けた事業の実施につながった。市民と行政が協働で作業を進めることにより、信頼関係や協働の礎の構築につながった。

#### 【No.2】

◆「行政評価システム基本方針」に基づき、平成25年度は、前年度のアクションプランを対象とした事務事業評価【年度評価】を行い、6月には「行政評価委員会による公開ヒアリング」を実施。その結果を活用し、推進会議・市民会議において施策評価を実施。9月に「第6次高浜市総合計画推進会議からの提言」が提出された。

### 8. 【CHECK】【ACTION】課題と今後の取組みの方向性

#### (1) 市民との協働による総合計画の進行管理のあり方

・行政評価システムの導入により実効性が担保される仕組みが整ったことから、今後は市民への負担感等も考慮し、進行管理のあり方を見直す必要がある。

→市民会議は前期基本計画期間で終了。市民とともに進行管理を行うという精神を引き継ぎ、「第6次総合計画推進会議」により、市民と行政が対話を重ねながら、適切な進行管理を行う。

→「市民は高浜市の共同経営者である」という趣旨の実現に向け、総合計画のみならず、市民と職員がともに高浜市の将来について考える場として、平成26年度に「アシタのたかはま研究所」を設置・運営する。特に、若い世代の参加が増えるよう、働きかける。

#### (2) 「参画・協働・情報共有ガイドライン」の策定と具体的なアクションの展開

・自治基本条例に規定した「参画・協働・情報共有」のガイドライン策定が遅れ、行政全体としての行動指針が明確にできていない。

→早急にガイドラインを策定し、全庁的に具体的なアクションを展開する。平成26年度には、各部局の事業推進決意の公表や公式フェイスブックの立ち上げなどを予定。

#### (3) 「大家族たかはま」のPR

・市民と行政がまちづくりの目標を共有するため、「大家族たかはま」の認知度をさらに高めていく必要がある。

→それぞれの事業の中で、その精神が広がる取組み(各種印刷物への掲載等)を市民と行政の協働により進める。

#### (4) 行政評価システムの検証・見直し

・行政評価システム全体の検証を行い、推進会議や行政評価委員会委員の意見も参考にし、中期に向けて改善する必要がある。

→行政評価について、より効果的かつ効率的でシンプルな仕組みを検討する。

### 9. 【CHECK】第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果

・3年間様々な取組みが行われたが、良い点・悪い点の検証が不足していた感がある。情報発信に関して一度見直しを行い、フェイスブックなど、新旧様々な手法により、市民にわかりやすく伝えることが大切である。わかりやすく伝えていくことにより、取組みの実現にもつながっていくと考えられる。